

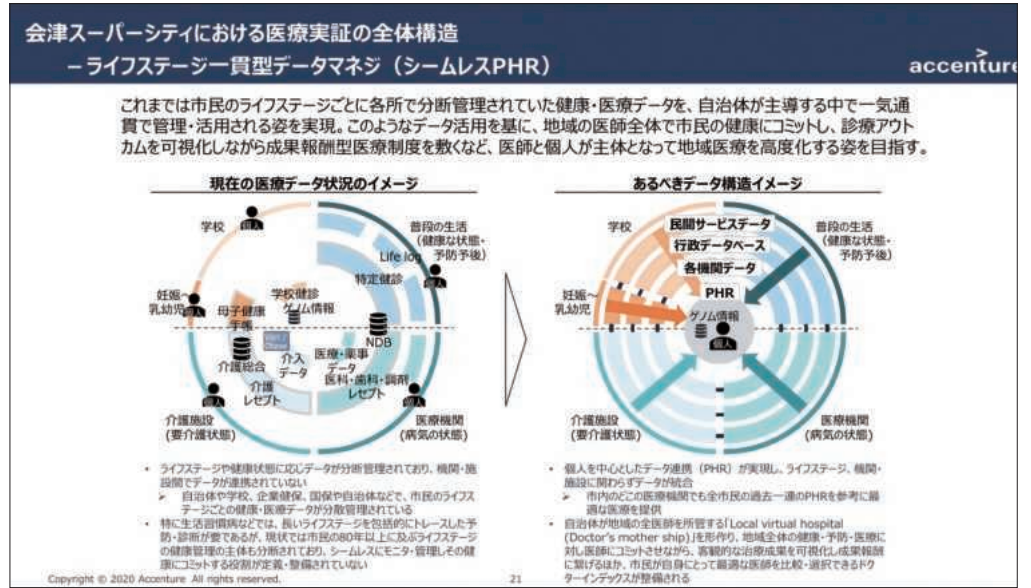
3.スマートシティについて

平野達司 先進的に進んでいる福島県の会津若松市の事例を紹介します。震災復興として取り組み、スマートシティの先駆的なところとなっている。一般的に市民が行政の情報を得るには、市の広報紙やホームページ、あるいはいろいろなアプリからと情報源はバラバラ。しかし会津若松+（プラス）としてすべて1つになっている。さらに情報は取りに行くものでなく個人個人の個人情報も登録しているので、状況に応じて情報がプッシュ型で通知される。たとえばお子さんのいる

家庭には、あるいは単身赴任の方にはとそれぞれの情報がプッシュ型で来る。予防医療の世界では会津若松+（プラス）は病院の先生方の協力で処方箋やお薬手帳といった情報に最終的には電子カルテも統合する方向で進められている。もしこれができれば、例えば意識不明で病院に運ばれても、こういった統合情報があれば即、最適な治療ができる。MY CONDITION KOBEも会津若松のように市民が必要な情報が情報価値として接続できるよう進めていただきたい。

熊谷健康局副局長 委員から会津若松市の先進的なスマートシティの取り組みについて指摘を受け、ホームページで拝見した。ぜひ会津若松に視察し、その取組等勉強したい。そして神戸にどのように活用できるか検討する。

平野達司 私も行っていない、ぜひ行きたい。会津若松市には最先端のIT企業やベンチャー企業が集積し、大手企業も進出している。それらの企業から最先端の情報が入ってきて、市民の意見と新しい技術でどんどん問題を解決し、市民への価値を高めている。神戸でもできると思うのでぜひ一緒になって取り組んでいきたい。最後に新型コロナの感染拡大で医療機関、介護施設、学校等クラスターが発生し、終息の見通しが立たないが、今後とも十分な対策を取られたい。



アクセントチュアの資料より

決算特別委員会 第2分科会 令和2年10月5日 水道局

- 人口減少に伴い、水の需要が減少。
一方水道施設の経年劣化で膨大な管路の補修や維持管理の増加による水道事業の今後の経営について
- 新しい技術の取り組みや給水収益が減るなど厳しい経営環境などの課題解決のため、昨年東京都、横浜市、大阪市等が水道ITC情報連絡会を立ち上げた。その後多くの政令市が参加する中、神戸市の参加について
- 水道技術者の技術継承のデジタル化について
- 鳥原貯水池の2.7キロの水と森の回遊路の整備について

以上4項目について問題を指摘し、提案も含め質疑をいたしました。



決算特別委員会 第2分科会 令和2年10月8日 環境局

- 民間企業では自動化、ロボット、AI等活用しているが環境局のごみ処理施設やパッカー車などのシステム化について
- 大型ごみの受付にLINE申し込みができ、決済も完了して、シールをはる手間をはずすようなシステムにできないか
- ごみの減量について
- ごみの分別概念がない外国人や留学生に日本のゴミ出しルールを浸透するための取り組みについて

以上4項目について質疑しました。

質疑応答のやり取りは紙面の関係からエッセンスだけを取り上げ、多くの内容はカットしました。質疑でのお互いのやり取りは敬語を入れ丁寧な言葉遣いですのでご理解ください。

また質疑の中でスーパーシティ構想を進めている会津若松市への視察が11月5、6日に実施されました。神戸市当局と議会からは自民党神戸市会議員団が参加しました。